

WITH コロナのリカレント教育~オンライン化の先に見える社会人基礎力~

■2020 フォーラム8月リカレント委員会&勉強会を開催致しました。(ご報告)

■日時:2020年8月22日(土)10時~12時/参加者:15名(企業8・大学3・講師1・協議会3)/ZOOM

■(1部):進行司会:渡邊副委員長:①開講挨拶 ②ガイダンス ③参加者自己紹介(近況報告/参加理由等)

- 1.リカレント委員会トピック:(株)日経HR 北村由紀子氏:開発「WEB診断」紹介と活用の展望。(監修:協議会)
- 2.勉強会テーマ「企業におけるコミュニケーションのオンライン化のメリット&デメリット」(事例紹介者:中尾氏)...

■(2部)「フレイクアウトセッション実施」(約30分):(1組・長尾:2組・芝原:3組・渡邊)/参考情報提供...

- 3.①オンライン化事例紹介(営業・顧客行動他) ②業務の変化(社内会議・オフィス変化) ③変化の観点
- 4.意見交換(3組×5)⇒代表発表/1組(前向きに工夫):2組(実践の取組み):3組(モチベーションに工夫)・
- 5.総括(芝原):主体的に変化享受、会社と個人の関係性を深耕する時/(渡邊)次回10/24案内と参加御礼

■委員長コメント~「与件の中で結果を出す」~

●「オンライン化」の大学・企業の現状を6月来3回のフォーラムを通して伺ってきた。デメリットを「旧来の悪弊打破」や「生産性の改善」「人・モノ・カネ・情報」改革の機会と捉えた大きな変革(オフィス閉鎖)や主体的な小さな工夫(みんなで会議他)の積み重ねから、企業は遅く前を向いて動き始めていることを実感した。ここで企業と個人の関係性が問われ、特に双方の「存在意義」に真剣に向き合い、日本型経営変革の時を迎え、自律的な個人が求められてきた。

株式会社日経HR:開発 社会人基礎力協議会:監修 VUCA時代を生き抜く社会人基礎力診断(WEB診断)

■「WEB診断」概要説明~開発の背景と運用。診断結果と活用~講師:日経HR北村氏

■[VUCA時代とは]V:変動性)・U(不確実性)・C(複雑性)・A(曖昧性)を言う。「人生100年時代」は「何を学び」「どの様に学ぶか」「どの様に活躍するのか」を言う

3つの視点を加味した2020版「WEB診断」を開発。そのポイントは診断者の「状況把握」と「行動確認」から社会人基礎力の発揮度と成長度を測るものである。その特色は...

- 1) 学生には発揮度・成長度を測り、学生生活全般に活用するツールとなる。
●低学年は、いま身に付けておくべき必須能力に気づき、課題と目標設定を行う。
●高学年には、学習成果の可視化と自己能力を客観的に把握し、振り返りと将来設計の基礎データとして活用出来る。診断結果レポートの解説・活用本がある。
- 2) 企業にとっては...採用選考データ、インターンシップに活用。新人研修と配属/配置、短中期の人材育成・キャリア教育の基礎データに活用できる。
- 3) 将来的には社会人基礎力を幼少期から取り入れ、段階的な「WEB診断」実施を経て次代を担う「イノベーション人材」の発掘・育成と具現化を期待したい。

■[フレイクアウトセッション報告]:今回テーマ「企業におけるコミュニケーションのオンライン化のメリット/デメリット」。意見交換の事前情報としてW社の事例を拝聴。4月に始まった同社のリモート体勢は6月に全社在宅勤務となりオフィスも閉鎖。社員反応は①現実型②葛藤型③転換型であった。一方、求心力低下、エンゲージメント(愛社心)に影響大きく「会社と個人との関係性」を深く考える機会となった。リモートは「この会社は何のために存在するのか」と言う本質を問う時となった。参加者の声は●ほぼ全員がリモートを前向きに捉え、仕組みやマインドを変化・工夫して今後に備えている。●職場や機能(管理・営業・開発・研究・製造)を区別し全社一律対応は避けて、効果性・労働生産性を尊重する体制を敷く。●大学の授業運営は教員側の工夫で何とか進んでいるが、登校不可の学生のモチベーション維持は難題。●受身型には向かない状況になってきた。幼少期から主体的な行動力養成が必要であろう。●オンライン化は社会人基礎力3つの能力の重要性を実感する。(以上)